

## 国際化学肥料ニュース（2017年1月）

### 肥料業界の2017年1月動態

- \* ロシア税関のデータによれば、2016年1~10月ロシアの硝安輸出量が288万トン、前年同期より1.2%増である。主な輸出先はブラジル（143万トン）、ペルー（17.1万トン）、インド（13.9万トン）、トルコ（11.3万トン）。今までトルコはロシア産硫安の大口輸出先であったが、2015年10月と2016年6月の連続テロ事件が発生後、トルコ政府が硝安の輸入と販売を禁止したため、2016年の輸出量が31%も減少し、11.3万トンしかなかった。
- \* 2017年も塩化加里の国際市場価格が安値安定の可能性が高い。2017年トルキスタンLebap州の加里鉱山開発プロジェクトが完成し、生産能力140万トン塩化加里、そのうち100万トンを輸出に供する。また、ロシアのEuroChem社も開発中の2加里鉱山が完成する予定で、それぞれ370万トンと460万トンの塩化加里生産能力が増加する。従って、2017年も加里肥料の生産過剰状態が改善できず、値上げできる状況ではないと専門家が見ている。
- \* アメリカのMosaic社はカナダサスカチュワン州のColonsay加里鉱山を再開した。当該鉱山は加里需要不振のために2016年7月から6ヶ月の生産中止と決められた。年間生産能力260万トン塩化加里、1月中に正常に稼働すると発表した。
- \* パキスタン政府は1月10日から2016~2017年度のDAP、尿素と過リン酸石灰に対する肥料補助金の支払いを停止すると発表した。2016~2017年度の肥料補助金は25kg袋のDAPに対して約2.83ドル、25kg袋の尿素に対して約3.77ドルであるが、予算化されている2.55億ドルがただ6ヶ月で底を尽きて、それ以上の負担ができなくなったためである。
- \* 1月13日、中国北京で「中国化学肥料付加価値産業技術革新連合」の年度大会が開催された。当該連合のメンバーが2012年12月創立の16社から42社に拡大された。  
当該連合の調査データによれば、2016年末現在、付加価値尿素（亜鉛入り尿素、腐植酸亜鉛入り尿素など）生産能力1000万トン、実生産量90万トン、付加価値りん安（腐植酸亜鉛入りDAPなど）生産能力100万トン、実生産量10万トン。また、付加価値新型化成肥料（腐植酸亜鉛または海藻抽出物入り化成肥料など）生産能力200万トン超、実生産量60万トンなど、2014~2016年の3年間に累計500万トン生産されたことが報告された。

また、2017年末に付加価値化学肥料の生産能力が2000万トン、実生産量200万トンを目指して、そのうち付加価値尿素生産能力1500万トン、実生産量100万トン、付加価値りん安生産能力150万トン、実生産量20万トン、付加価値化成肥料生産能力300万トン、実生産量80万トンを目指すという方針も確認された。

- \* 中国税関の速報によれば、2016年中國の化学肥料輸出量（実物量、以下同）が前年より21.5%減の2791万トン、輸入量も25.5%減の832万トンである。その内訳は、輸出では尿素が35.6%減の886万トン、DAPが15.3%減の680万トン、硫酸加里が64.6%減の2.7万トン、NPK化成肥料が88.4%減の7711トン、輸入では塩化加里が27.6%減の682万トン、NPK化成肥料が22.6%減の113万トン、硫酸加里が11.1%増の5万トンである。

### 大手各社の営業業績

- \* ロシアのAcron社が2016年1～9月の業績を公表した。化学肥料生産量が13%増の470万トン、販売量も11%増の460万トン、肥料価格の下落で、売上高が3%減の9.77億ドル、純利益が2%増の2.13億ドル。利益増加の理由の一つは2016年8月中国にある合弁肥料子会社を香港資本の投資グループに売却して、その売却益が入った。  
また、2016年の化学肥料販売量が650万トンに達し、2017年が700万トン超を予測する。
- \* カナダのPotash Corp社は2016年第4四半期の業績を公表した。加里肥料の需要不振と価格低迷の影響で、売上高が11.5%減の10.6億ドル、純利益が70.6%減の5900万ドルしかなかった。

### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* シンガポールのIndoramaグループはウズベキスタン政府と合弁で、ウズベキスタンに化学肥料会社を設立する。合弁企業の名称は「Indorama – Kokand Fertilizer」で、Indoramaグループが8000万ドルを出資し、合弁企業の75%株式を持ち、ウズベキスタン政府はKokand過リン酸石灰工場の資産を出資し、合弁企業の25%株式を持つ。5年間をかけてKokand過リン酸石灰工場を改造と拡張し、過リン酸石灰のほか、硫酸加里、硝酸加里および飼料用りん酸カルシウムを生産する予定である。
- \* 2016年12月27日、エジプトのOCI社はアメリカアイオワ州のWeverにある窒素肥料工場のアンモニア合成ラインが竣工し、正式に稼働したことを発表した。Wever窒素

肥料工場の総投資額 19 億ドル、完成後の生産能力がアンモニア 72.5 万トン／年、尿素と UAN（尿素硝安液肥）140 万トン／年である。

- \* インドからの報道によれば、インドの肥料商社 Sun Group はエジプトのりん酸塩メーカー Misr 社と合弁でエジプト Aswan 県 el-Seba'eia 地区にりん酸肥料工場を建設する。当該合弁工場の設計生産能力はりん酸 51.8 万トン、りん安（DAP と MAP）34.5 万トン、重過リン酸石灰 34.5 万トン、2017 年着工、インド側の投資額 4000 万ドル。

## その他

- \* 2016 年 12 月 19 日、ドイツの K+S 社は 1000 万ドルを投じて、サウジアラビアの Al-Biariq 社の株式 30% を取得したことを発表した。Al-Biariq 社は硫酸加里メーカーで、生産能力 2 万トン／年であるが、2017 年に 4 万トン／年に拡張される。K+S 社は Al-Biariq 社の製品製造と販売に協力して、将来はさらに 30% 株式を購入する権利があるという。
- \* ヨルダンからの報道によれば、ヨルダン APC 社の労働者が賃上げと手当の拡充を求めて、ストライキを予定している。APC 社の労働組合は 12 月に経営側と交渉して、賃上げと手当の増額を要求したが、1 月、経営側が組合側の要求を拒否した。その理由は APC 社の賃金と手当はすでにヨルダン国内最高ランクであり、もし要求通りに実行されれば、会社が約 2800 万ドルの支出増加となり、業績が極端に悪化する可能性がある。  
APC 社は国営企業で、死海の海水を使って塩化加里などの化学品を生産している。政府の仲介で 1 月 8 日に会談を行う予定であったが、組合側が出席せず、流会となった。組合側は 1 月 17 日にストライキを行うと発表した。経営側はすでに政府に労働仲裁を要請した。
- \* ブラジル Clobo テレビの報道によれば、1 月 5 日サンパウロ州にあるブラジル Vale 社の Cubatao 第二化学肥料工場に火災が発生した。消防からの情報によれば、製品コンベアが爆発してから着火し、硝安と硫酸が気化してオレンジ色の有害ガスが発生した。翌日火災が鎮火した。火災の原因が調査中である。今回の火災には人員の死傷がなく、消防士 2 名がガスを吸入したが、翌日退院した。Cubatao 第二化学肥料工場はアンモニア、硝酸、硫酸、りん酸、MAP、DAP と硝安を生産している。
- \* 1 月 10 日、アメリカ商務省が中国産硫安のアンチ補助金調査に最終裁決を下し、アメリカに輸出する中国産硫安への補助金率が 206.72%（生産コストに対する補助金の比

率) と裁定した。なお、アメリカ国際貿易委員会は 2 月 23 日に中国産硫安のアンチダンピング調査に最終裁決を出す予定である。

2016 年 6 月 14 日アメリカ商務省が中国産硫安にアンチダンピングとアンチ補助金調査を開始し、10 月 24 日アンチ補助金調査の仮裁決、11 月 2 日アンチダンピングの仮裁決を下し、いずれも中国産硫安のダンピングと補助金の存在を肯定した。

- \* メキシコからの報道によれば、国営のメキシコ国家石油 (Petroleos Mexicanos) は傘下の化学肥料子会社の売却を検討している。2015 年 Petroleos Mexicanos は自国の肥料メーカー Grrpo Fertinal 社を買収して、化学肥料生産能力を 120 万トンに増やしたが、化学肥料販売価格下落と輸入品の競争で、赤字に陥った。不採算部門の整理で、売却を前提に検討している。